海外の人間工学専門家認定機構との連携状況

—AHFE2014及びIEA2015における企画—

○福住 伸一 (NEC データサイエンス研究所／人間工学専門家認定機構副機構長)

Jose Orlando Gomes (リオデジャネイロ連邦大学／IEA副会長)

Cooperation situation with certification professional ergonomist organization of other countries

-Symposium in AHFE2014 and IEA2015-

Shin'ichi Fukuzumi (Data Science Research Laboratories, NEC Corporation / Vice chair of CPEJ),

Jose Orlando Gomes (Federal University of Rio de Janeiro / Vice president of IEA)

1. はじめに

人間工学専門家認定機構（以下、機構）では、専門家の活動をより広く認知してもらうことやグローバル対応／連携が将来課題と認識している。前者については、全国大会や関東支部会でのシンポジウム開催やCPEサロン、CPEセミナーなどを通じて認知度を高めようとしている。また、そのような活動を海外の認定機構はどのように行っているのかの調査も検討した。それがきっかけとなり、後者のグローバル対応／連携を具体化することとなった。現在、多くの国で人間工学関連の専門家認定組織が存在し、多くの専門家がそれぞれの領域で活躍している。このような活動は、産業界にとって重要であり、その産業界を支える人間工学を普及させるうえでも重要である。しかしながら、日本と同様、このような重要な活動や効果があまり広く知れわたっておらず、多くの専門家が活用できていないだけでなく、その専門性も十分に認識されていない¹⁾。この問題に対し、まずは著者らがそれぞれの国の状況について情報交換し、それぞれの団体が国内外での他の人間工学関連専門家組織の活動を知り、交流を開始することがこれらの課題解決のきっかけになるのではないかと考え、そのような場を設定することを企画した。

2. AHFE2014

2014年7月にPolandのKrakowで開催されたApplied Human Factors and Ergonomics (AHFE) 2014において、”The Role and Functions of Professional Certifications Organizations”というセッションを企画した。このセッションの目的は、以下である。「世界各国に人間工学関連専門家団体が存在し、多くの専門家がそれぞれ活躍しているが、あまりその存在は知られていない。その理由として、情報がその組織内で閉じているということ、人

間工学そのものが知られていないということ、などが挙げられる。このような課題に対してそれぞれの団体がどのように取り組もうとしているのか、その他の課題や将来目指すところについて、情報共有とディスカッションの場を設定することを目的とする。そして、2015年のIEA総会で、専門家団体の方向性について議論する場を設けるための第一歩とすることをも目的とする」。この趣旨・目的の下、5ヶ国のCPE(USA/BCPE, Russia, South Africa, Brazil, Japan)とUX関連の2つの団体(CPUX, HCD-Net/Japan)が参加した。

図1 AHFE2014における討議*

このセッションでは、各国／団体の活動や課題の紹介が中心であった。特に、大学での人間工学関連教育の時間がないことと大学卒業後の教育の難しさが共通の課題として認識された。その他詳細については、既報²⁾を参照されたい。

著者らは、CPEの発展にとって重要な役割を果たす国／団体として、USA(BCPE)、ヨーロッパ(CREE)、BRICs(Brazil, Russia, India, China, South Africa)、アジア(Japan他)、を想定していた。しかし、AHFE2014でのこのシンポジウムでは、準備期間が短かったこともあり、前述の5ヶ国の

みの参加であった。ただ、イタリア人間工学会からの発言、CREEメンバーの突然の参加や、翌日にはなってしまったが中国メンバーとのディスカッションなど、結果的には関係する国／団体とコミュニケーションを取ることができた。

3. IEA2015

AHFE2014の際には準備不足で多くの国／団体の正式な参加を得ることができなかったため、AHFE2014終了後速やかにIEA2015に向けた準備に取り掛かった。最初に行ったのは、趣旨の明確化とIEAの中でCPEとして重要なポジションにあるCREEのchairの説得である。結果的には、終了後にIEAに何らかの提言をし、アクションを起こすということで合意を得た。それと並行して各国／団体のキーパーソンに直接コンタクトを取り、最終的にCPEについてのリーダー的存在であるUSA/BCPEやCREE、これからさらに強くしていきたいと考えているカナダや、IEA開催地域で他との交流が地理的に難しいオーストラリアやニュージーランド、産業的に今後重要な地域となるBRICs（ロシアは予算の都合で不参加、中国はプログラムの関係で直前キャンセル）や中米の中心メキシコ、日本のHCD-NetとCPEJと合計11件の参加を得ることができた。今回は、シンポジウムという形式で、”International cooperation on certification of professional ergonomists”というタイトルで実施した。

図2 会場風景*

討議の時間が十分確保できず、ポイントが資格認証の仕組みについてのみとなってしまった。組織間で統一した仕組みが可能かどうかには話が及んだが、CREEやインドなどから、多様性のある人た

ちを対象にそれは無理だという意見が出て、どのように対応していくかが今後の課題となった³⁾。

図3 発表者及び運営に関わった方々*

4. 今後の方向性

この一連の活動で、グローバルの観点からそれぞれの活動を認識するという点では目的は達成できたと言える。多様性という課題については、当初説得が必要であったCREEが動き出し、シンガポールから代表が選出されてIEA内に専門家教育の委員会が立ち上がった（日本からは著者がメンバー）。今後、CPEとしてこの委員会に協力していくとともに、アジアの中心として日本から情報発信や様々な施策を仕掛けていく。

*写真掲載は全員の了解を得ている

4. 考察

<連絡先>

〒211-8666 川崎市中原区下沼部1753

NEC データサイエンス研究所 福住伸一

Email: s-fukuzumi@aj.jp.nec.com

参考文献

- 1) 福住他：海外専門家認定団体との連携について、日本人間工学会第55回大会講演集、pp68-69, 2014.
- 2) 福住：人間工学専門家認定機構の国際連携-AHFE2014での企画セッション報告、人間工学、Vol. 50, No. 5, pp307-308, 2014.
- 3) 福住：IEA2015シンポジウム、会報・人間工学専門家認定機構、Vol. 45, 2015. 11.